

平成29年度 第4回

地域包括支援に関する会議

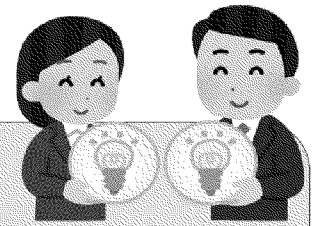
資料 3

3 議事

(1) 校区の作戦会議について

地域包括ケアシステムの構築に向けた校区の「作戦会議」

～校(地)区社会福祉協議会を核として多様な住民や団体が参加する協議・連携・実践の場～



地縁団体

【役割】参加呼びかけ、広報、資金集め 【メリット】加入者の利便性向上による加入率の向上

まちづくり協議会、自治会、PTA、老人クラブ、婦人会、消防団、子ども会 など

学生
の参加

住民・ボランティア・プロボノ(専門を活かしたボランティア)

【役割】情報・知識・能力提供、企画・運営への参加 【メリット】生きがい・仲間づくり・安心感・自己有用感

民生委員・児童委員、福祉協力員、健康づくり推進員、食生活改善推進員、介護予防推進員、認知症カフェマスター、介護支援ボランティア、きたきゅう体操・ひまわり太極拳普及員、消防団員、スクールヘルパー、福祉系大学の学生、IT企業社員、市議会議員、企業・市職員OB など

校(地)区 社会福祉協議会

事業者・NPO等

【役割】施設・設備、専門知識、サービスの提供 【メリット】地域との協働による効果的な事業展開

医療・介護・福祉施設、宗教施設、薬局、店舗、協同組合、シルバー人材センター、大学、スポーツジム、タクシー会社、葬儀社、金融機関、NPO など

専門職
の参加

行政等

【役割】情報提供、運営支援 【メリット】地域との協働による効果的な福祉の実現

いのちネット担当係長、地域支援コーディネーター、地域包括支援センター、校区担当保健師、認知症支援・介護予防センター、市民センター館長、社会教育主事、生涯学習推進コーディネーター、警察署、消防署 など

目指す地域像の共有、生活支援ニーズ・地域資源の把握、参加の呼びかけ、計画・評価
それぞれの得意を活かした連携による生活支援の仕組みづくり

住み慣れた地域で安心して暮らせるための「3つ」の作戦～

～全員参加と地域資源の組み合わせによる「三方よし」の地域づくり～

作戦その1 通いの場づくり

いきがい・健康づくり、交流の場

高齢者サロン

認知症カフェ

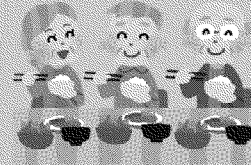
暮らしの保健室

寺カフェ・終活支援

地域食堂

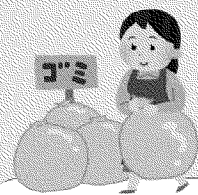
ふれあい昼食交流会

地域でGOGO健康づくり



作戦その2 助け合いづくり

ご近所さんによる訪問支援



ふれあいネットワーク(社協)
友愛訪問(老人クラブ)

安否確認、話相手、情報提供
ゴミ出し・電球換え など

有償ボランティアによる生活援助

送迎、買い物同行、掃除・調理の手伝い
食事のおすそ分け、飼い犬の散歩
家具・重たい荷物の運搬・移動・固定
家族不在時の子ども・認知症者等の見守り
など

ボランティア・コーディネーター



作戦その3 サービスづくり

事業者・NPO等による生活支援サービス

乗り合いタクシー・バス

シルバー人材センター
庭の手入れ・大掃除など

配食サービス

移動販売

お弁当



健康づくり・
介護予防指導

地区担当保健師
介護施設・医療機関

住民主体の認知症予防・
介護予防活動の支援

認知症支援・介護予防センター

仕組み構築・運用支援
コーディネーター研修

市・区社会福祉協議会

NPOの育成
地域とのマッチング

市民活動サポートセンター

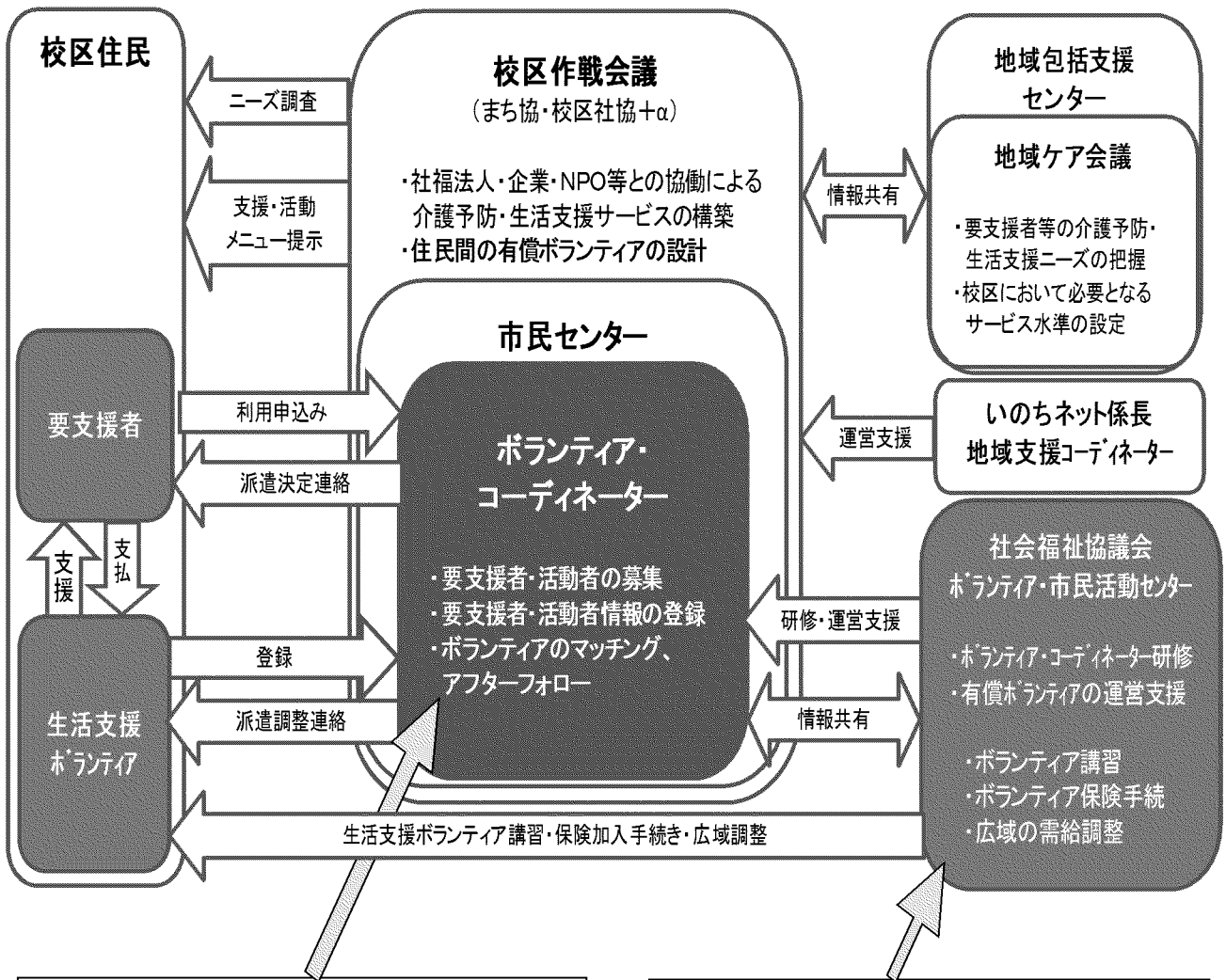
担い手の育成、地域とのマッチング

社会福祉ボランティア大学校 年長者研修大学校 生涯現役夢追塾 生涯学習センター

地域包括ケアシステム構築に向けた意識の醸成、多様な主体の協働促進、作戦会議の運営支援

市・区社会福祉協議会 地域支援コーディネーター いのちをつなぐネットワーク係 地域包括支援センター

校区での生活支援ボランティアマッチング事業のイメージ図



校区ボランティア・コーディネーターの配置（4名程度）

- 校区の作戦会議にて、ボランティアマッチング事業に取り組むことを決定した市民センターに順次配置。
- コーディネーターは、地域の中から選出し、研修、給与支払い、備品配置等は市社協が行う。
(市社協の事業に対する助成)
- H30年度は4校区程度の助成を想定。

支援員の配置（2名）

- 市民センターを拠点に行われるボランティアマッチング事業の運営を技術的に支援する職員を社会福祉協議会に配置。
- 配置する職員は、地域福祉活動やボランティアマッチングに対する知識、経験、ノウハウを有している必要があるため、勤務経験を有する主事級を想定。
- 全市を東部・西部に分け2名配置予定。